

2006年3月20日

[社会調査士(第四回)][専門社会調査士(第三回)]の科目認定に関する報告

科目認定委員会委員長 天野 正子

副委員長 岡太 彬訓

昨年12月20日(火)締め切りで、2006年度、2000 - 2005年度の科目を申請していただき、ありがとうございました。今回は、社会調査士の科目に116大学150機関(内、新規32大学37機関)、専門社会調査士の科目35大学38機関(内、新規11大学12機関)から、合計1940科目の申請を受理致しました。

このたび申請された科目の認定作業を終了し、その認定結果を公表する運びになりましたので、これまでの認定経過と、認定過程で指摘されたいくつかの問題点について簡単にご報告致します。

1. 認定作業経過

認定機構では2月20日、3月14日に科目認定委員会を開催し、今回申請していただいた科目について審査を行ないました。

2006年度からの科目認定(2004年度以降に開講されている科目が対象)については、すでに報告していますように、G科目を除く科目は「確認項目」に基づいて、G科目は新たな書式による「科目説明書」をもとに審査しました。

審査は、第一次審査(認定委員による個別審査)、第二次審査(全認定委員による合同審査)、第三次審査(内容を修正し再提出された科目について、全認定委員による合同審査)の三段階を経て慎重に行ないました。

最終的な審査の結果は、以下の通りです。

認定科目数 1927 科目

認定不可科目数 13 科目

* ただし、認定科目のなかには、科目認定委員会から「意見書」を付記したうえで認定された科目がございます。これらの科目につきましては、次年度申請時に、「意見書」に記載された内容を必ず変更したうえでご提出下さいますよう、よろしくお願いたします。

2. 科目認定に関する課題

(1) 「確認項目」について

今回の科目認定では初めて、「確認項目」に基づいて審査が実施されました。連絡責任者のご尽力のおかげで、大多数の申請は、「確認項目」のねらいと運用手順についての理解のもとに記載されております。ただ、いくつかの申請において、「確認項目」との対応をはかることのできないあいまいな記述、「確認項目」との照合の結果、標準カリキュラ

ムの内容との大きなズレが見受けられる記述、 認定機構が求めている 8 コマ分の授業が読み取れない記述がありました。

今後とも「確認項目」のねらいと運用手順についてご理解をいただき、ご協力をお願い致します。なお「2006 年度〔社会調査士〕科目認定と手順についてのお願い」で述べましたように、「確認項目」は 2004 年度と 2005 年度の科目認定基準をより具体的な形で示すものであり、「新たな基準」を導入したものではありません。

(2) G 科目について

社会調査士資格認定機構のパンフレットでは、G 科目は「調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習する授業で・・・」と説明しています。2006 年度 G 科目の申請から、科目説明書の書式を改定し、より具体的に記述していただくことになりましたが、それは申請科目が上記の内容を実際に備えているかどうかを、より正確に判断するためです。

連絡責任者や社会調査実習担当の先生方のご尽力のおかげで、今回の G 科目の申請はより具体的な内容を備えたものになっています。ただ、ごく少数の大学において、調査のテーマや目的、方法があいまいで具体性を欠いていたり、説明が不十分であるケース、ならびに 学生の卒論指導的な授業と見受けられるケースがありました。

認定機構は授業科目のなかでもとくに G 科目の充実をめざしております。G 科目の趣旨をより一層ご理解下さいますようお願い致します。

(3) お願い

G 科目を担当されたすべての先生方に「調査 / 成果報告書 (調査の成果がわかるものでしたら、学生のレポート集でも結構です)」の提出を依頼いたしたく存じます。4 月 30 日までに、シラバスと併せてお送りくださるようお願い致します。

なお、2007 年度から、「調査実習概要報告書」を公開 (HP 上) する予定となっております。